

大垣西インターチェンジ周辺道の駅等整備基本方針(素案) 概要版

1 背景と目的

大垣西インターチェンジ周辺地区（以下「本地区」という。）は、東海環状自動車道をはじめ、国道21号、主要地方道大垣環状線が結節するとともに、東海道本線が通り、JR荒尾駅が近傍に位置する交通の要衝です。

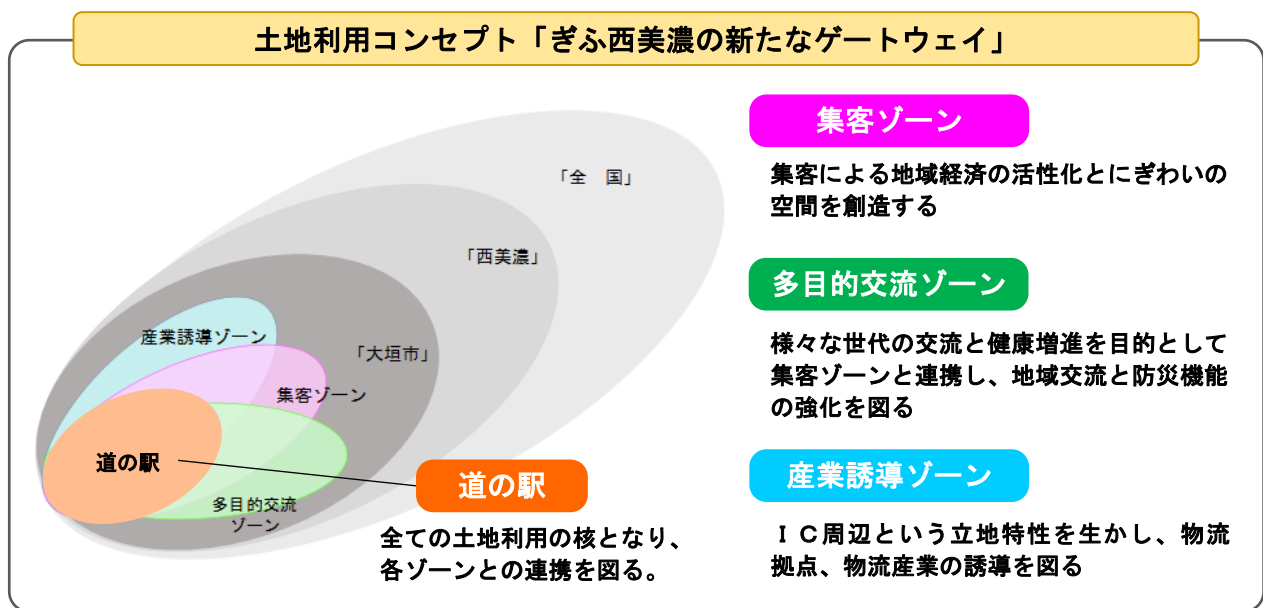
今後は、東海環状自動車道の全線開通が予定され、また、現在進められている国道21号岐大バイパス工事の進捗により、大垣西ICと岐阜各務原IC間の交通量は、ますます増加することが見込まれています。

これらの状況を踏まえ、本市では本地区の立地特性を生かした土地利用の方向性を示すために「大垣西インターチェンジ周辺土地利用構想」を令和6年度に策定しました。

今回策定する基本方針は、この土地利用構想を具体化し、道の駅と一体的に機能する周辺土地利用のあり方をはじめ、道の駅の段階整備に関する方針を示すことにより、「ぎふ西美濃の新たなゲートウェイ」にふさわしい土地利用の実現に向け、段階的かつ計画的な取り組みを推進するためのものです。

2 大垣西IC周辺土地利用構想

大垣西インターチェンジ周辺において、「道の駅」を核とし、各ゾーンと連携し全体として機能する土地利用を図ることで、「ぎふ西美濃の新たなゲートウェイ」として、地域価値を向上させ、「地方創生」「持続可能」な都市の実現を目指します。



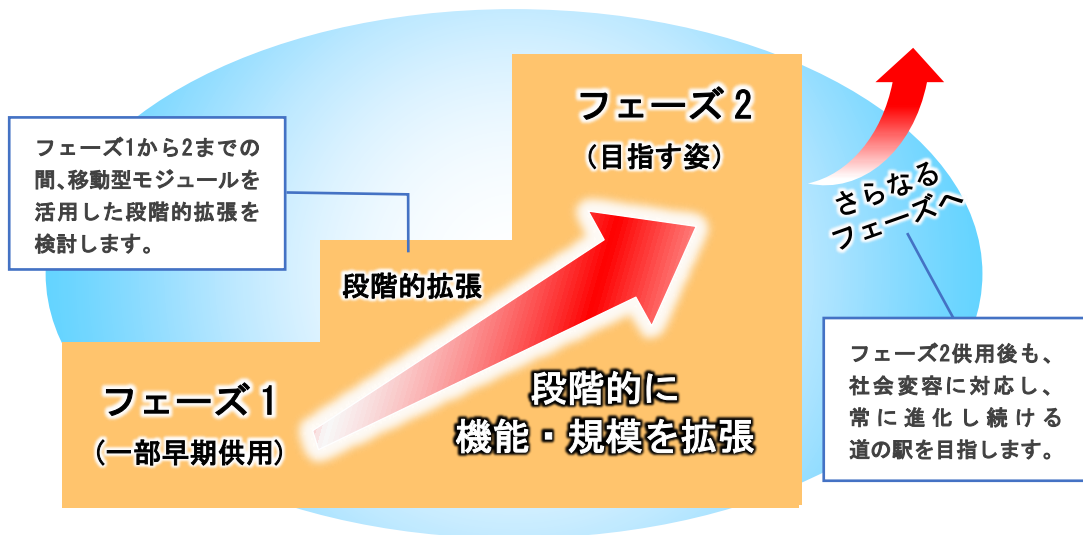
3 本市が目指す道の駅

(1) 段階整備～大きな夢も現実的な一歩から～

本地区における今後の状況を見据え、一刻も早く道の駅整備に取り組む必要がある一方、まとまった用地と予算の確保という課題もあります。

これらの課題を解決するため、道の駅整備は段階的に行います。「できる場所」で「できること」からスモールスタートし、徐々に機能と規模を拡大していこうというものです。整備は大きく分けて2段階。まず、「フェーズ1」として、移動型モジュールによる先行整備を行います。続く「フェーズ2」では、固定型の本格施設と移動型モジュールを融合させた、本市が目指す道の駅の基盤を確立します。

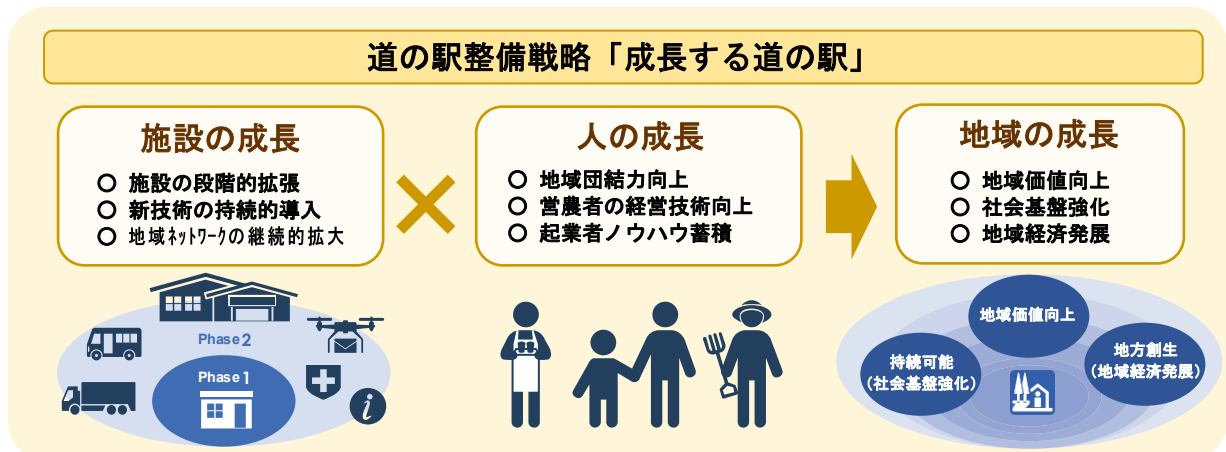
また、「フェーズ2」は、道の駅単体の整備にとどまらず、官民連携により周辺との一体的な施設整備を目指します。



(2) 道の駅整備戦略「成長する道の駅」

道の駅の機能的・空間的な「施設の成長」、道の駅を通じて育まれる「人の成長」を踏まえて、「地域の成長」へとつなげていくことを展望し、本地域の道の駅の整備戦略を「成長する道の駅」とします。

また、道の駅第3ステージの次なる展開を展望し、社会変容に対応した強靱でしなやかな拠点づくりを図ります。



(3) 本市が目指す道の駅における導入機能のあり方

メインターゲット（道路利用者、周辺住民、観光者）へのアプローチ方法や導入機能をとらまとめ、本市の道の駅として目指す姿を表現しました。

住民に対して—生活を彩る機能—

何でもそろろう

ワンストップで日々の買い物が完結できる施設を目指し、多様で利便性高い充実した商業機能を導入します。

みんなの舞台

道の駅を舞台に多様な人々が様々な関わり方で主役になれるような機能を導入します。また、営農者の営農基盤強化、地域の雇用環境の向上を図ります。

繋がりが暮らし豊かに

地域交流を促進させ、繋がりを生み出す機能を導入します。

道路利用者に対して—休憩を彩る機能—

ひと休みがごほうびに

快適で贅沢な休憩環境を提供します。

観光者に対して—観光を彩る機能—

地域の物語に触れる旅

本市の歴史・自然的魅力を伝える機能を実装するほか、観光ハブとして西美濃周遊観光を促進します。

食べて見て触れて大垣の恵み

大垣の豊かな水や、お米等の農産物の魅力を存分に知ってもらえるよう、加工・販売・PR機能を導入します。



道の
駅

防災機能

広域的な支援・受援

濃尾平野全体における広域的な支援、受援拠点として、自衛隊や警察などの受け入れ及び救援活動等を行います。

西の地域防災拠点

地域の防災拠点となるよう、防災機能の充実や平時からの防災訓練の実施等により地域の防災力を向上させます。

新技術

社会課題解決のショーウィンドウ

日々進化する技術を柔軟に取り入れ、地域の特色を生かしつつ、社会課題解決を図ります。

体験を変えるテクノロジー

訪れる人にテクノロジーの力で新たな体験を提供できるような機能を実装します。

4 道の駅開駅に向けたフェーズ1（賑わい施設）基本計画

(1) フェーズ1 整備の考え方について

フェーズ2の成功に向けた助走期間

フェーズ2の整備までにかかる期間を有効活用します。テストマーケティングにより利用者及び運営者のニーズを把握し、日々変化する社会情勢を踏まえ、フェーズ2の構想を柔軟にアップデートします。

可変性に富んだコンテナ等の利活用

フェーズ1は、移動型モジュールとして、コンテナやトレーラーハウス等の施設による整備を基本とします。当該施設は、可変性に富み、機能の拡大、移動が容易である等「成長する道の駅」のコンセプトに合致します。

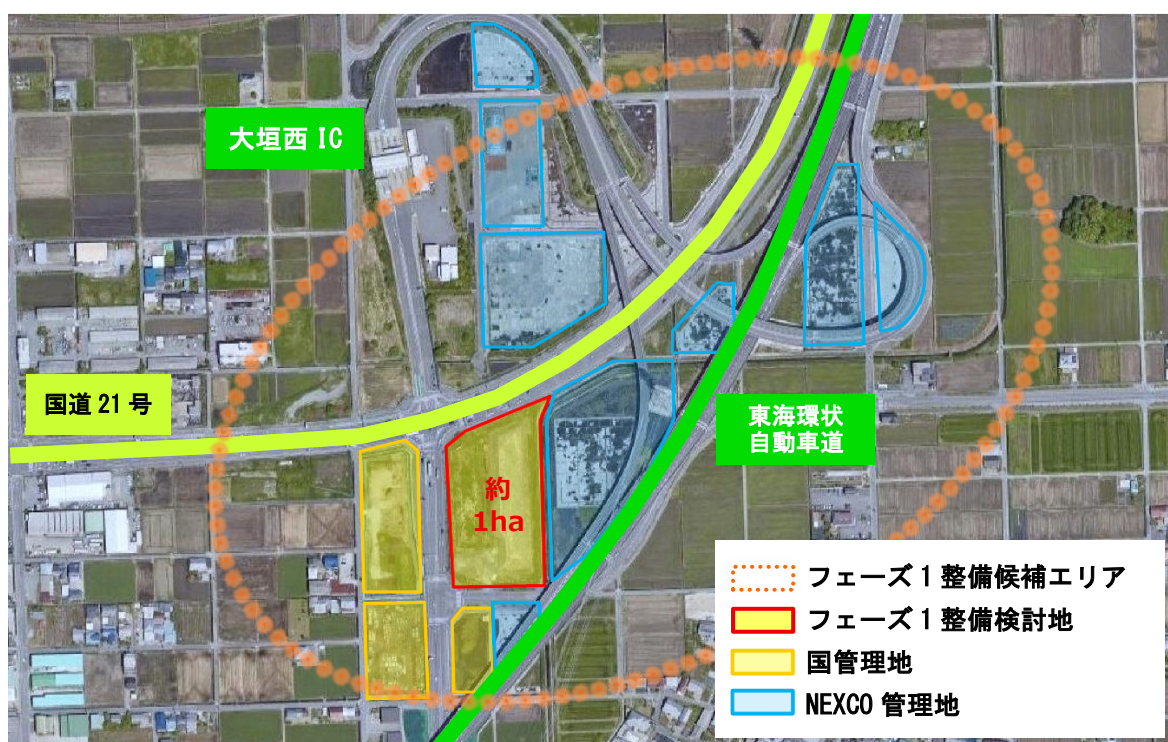
ワクワク感があふれ出すデザイン・アート

コンテナのような施設は、季節やテーマに応じ、姿や役割を切り替えることができ、大垣らしくてアートを感じられる…そんな仕掛けや演出を施すことで思わず来たくなる「映える」空間を持続的に提供します。

(2) フェーズ1 整備候補エリア

フェーズ1の整備候補エリアは、用地取得の合意形成にかかる時間や、補償にかかるコスト等を削減する観点から、大垣西インターチェンジ周辺の道路事業予定地とします。特に土地の現況や沿道からのアクセス性等を考慮し、検交差点の南東角に位置する約1ヘクタールの土地を対象に整備の検討を進めます。また、フェーズ2整備までの間においても、段階的な敷地拡張による施設機能の充実を図ります。

なお、フェーズ1における道路事業予定地の活用は暫定的なものとし、フェーズ2完成後、または道路管理や道路工事上の必要が生じた場合には、原則として撤去し移設するものとします。

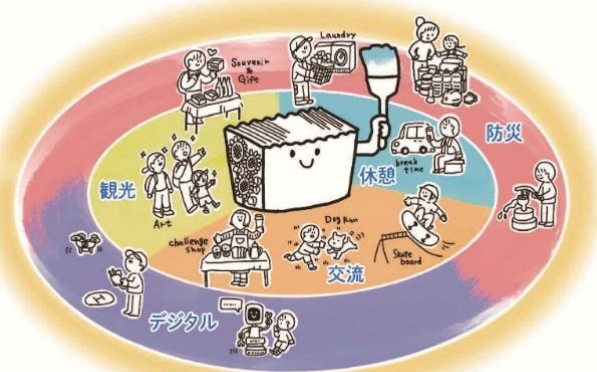


③ フェーズ1 導入機能コンセプト 『しなやかに未来を彩るみんなのキャンパス』

フェーズ1の導入機能コンセプトは、『しなやかに未来を彩るみんなのキャンパス』です。

コンテナやトレーラーハウス等の可変性に富む移動型モジュールを活用し、本地区における土地利用のきっかけづくりとして、このエリアをキャンパスにみたく様々な色（付加価値）を塗っていこう（生み出していこう）という思いを込めています。

主役は、地域住民、道路利用者、観光者です。それぞれの思いに寄り添い、しなやかに色やカタチを変えながら、未来を彩ります。



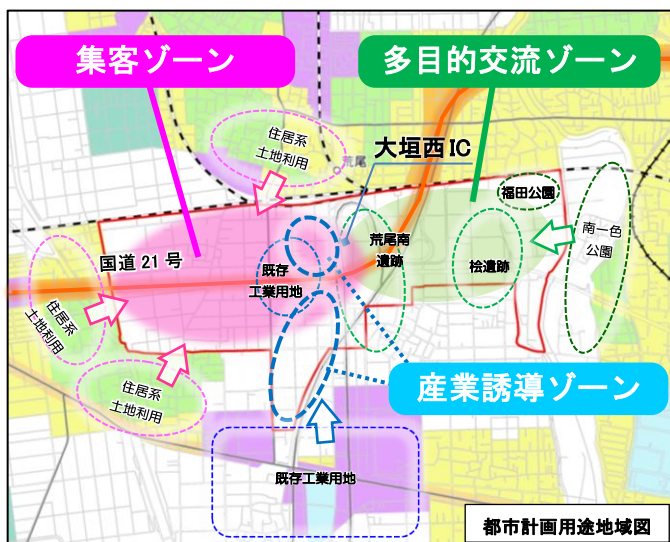
(4) フェーズ1 導入機能

検討する導入機能		イメージ
休憩	<p>コンテナだからといって簡素な休憩所ではなく、ここに来てホッと一息つきたくなる上質なやすらぎ空間を提供します。</p> <p><検討する導入機能> トイレ、情報発信施設、シャワー・ランドリー施設 等</p>	 <p>情報発信施設 コンテナ(蓋山P.A)</p>
交流	<p>様々な世代の住民が学び、遊び、交流できる居場所や「水都おおがき」を感じられる憩いの空間づくりを進めます。また、地元製品の育成や何かをやりたい人のきっかけとなる場を提供します。</p> <p><検討する導入機能> 子どもの遊び場、親水広場、イベント広場、チャレンジショップ 等</p>	 <p>子どもの遊び場 「わいわい」 コンテナ(コヒク)</p>
観光	<p>思わず立ち寄りたくなる、アートを感じられる空間づくりや、様々な交通モードに対応した観光ハブ拠点を目指します。</p> <p><検討する導入機能> アート・コンテナ、バス停(路線・観光)、車中泊専用パーキング、バイクステーション 等</p>	 <p>エモーショナル・プロジェクト Roomouch・小川亮</p>
デジタル	<p>地域の暮らしの価値を高めるほか、施設運営の効率化を目的として、様々な先進技術の導入をトライアル的に検討します。</p> <p><検討する導入機能> 無人販売所、自動運転バスの発着地点、現地決済型ふるさと納税システム 等</p>	 <p>次世代モビリティ e-Palette (トヨタ自動車)</p>
防災	<p>コンテナという可変性を生かし、有事の際には柔軟かつ機動的に対応することで、地域に対し“途切れない安心”を提供します。</p> <p><検討する導入機能> 防災倉庫、自然エネルギー活用型コンテナ、高付加価値トイレコンテナ 等</p>	 <p>高付加価値コンテナ (医療・防災)</p>

5 道の駅フェーズ2 整備の方向性

(1) 大垣西インターチェンジ周辺地区における土地利用の考え方

本地区及びその周辺の現況を総合的に勘案したゾーニングについて、その考え方を示します。当ゾーニングに基づき、具体的な土地利用を検討するものとします。



ゾーニングの考え方

- 集客ゾーン
国道21号が通り、三方(北・西・南)で住居系土地利用が進んでいることから、集客性が高いエリアとして大垣西IC以西に設定
- 多目的交流ゾーン
自然資源(南一色公園、河川等)や歴史資源(検遺跡等)との連携性が高いエリアとして大垣西IC以东に設定
- 産業誘導ゾーン
既存工業地との連続性や近接性が高いエリアとして大垣西IC以西から荒尾町交差点までを設定。ただし集客ゾーンとのすみ分けに留意し柔軟にゾーンを調整する

(2) 道の駅と一体的に機能する周辺土地利用

道の駅フェーズ2は、地権者や民間企業の意向を踏まえ、周辺の土地利用と一体的に検討する必要があります。

このため、現段階では、本地区及びその周辺の特性を踏まえ、「集客を基軸にした周辺土地利用」と「多目的な交流を基軸にした周辺土地利用」の2つの軸から、複数のゾーニング案を検討することとします。

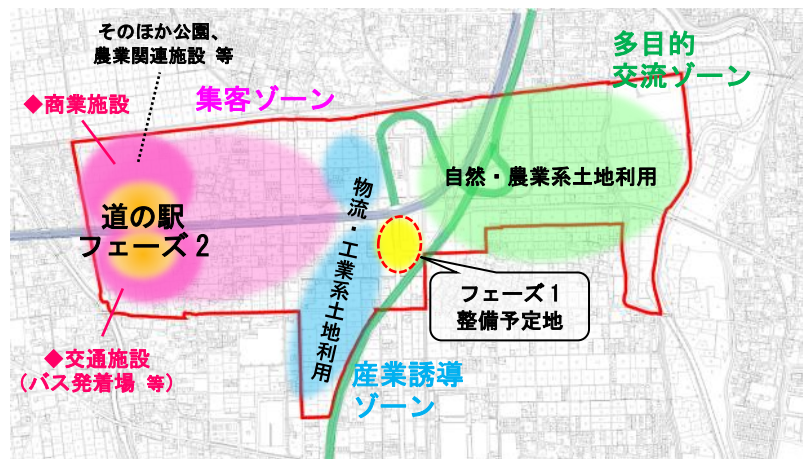
集客を基軸にした周辺土地利用（道の駅×商業系施設）

道の駅のもつ“集客性”に着目し、その集客性を飛躍的に向上させるべく、複合的な施設等との一体整備を目指します。本地区のもつ交通アクセス優位性や、周辺に住宅が広がっているという特性を生かし、集客効果の最大化を図ります。

ゾーニング案1（敷地活用性を優先） ※ 大垣西IC西側の西方面に道の駅

敷地活用性が高く、一団のまとまった土地を確保しやすいため、様々な施設との一体性に優れた整備が可能です。

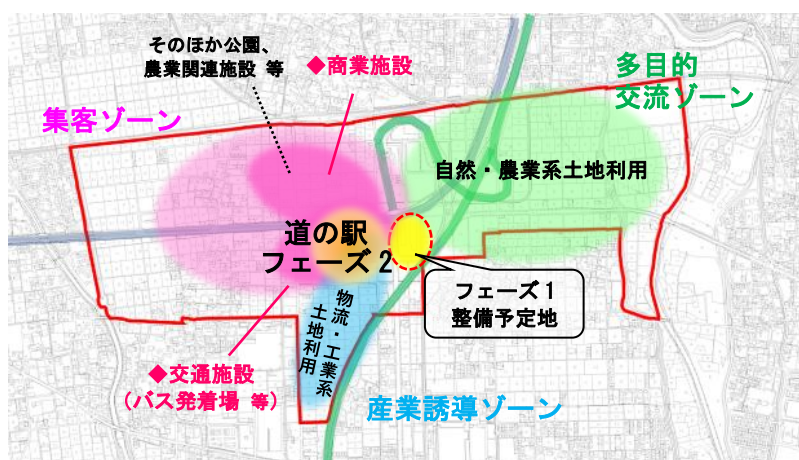
また、国道21号の南側に大型車用をはじめとする駐車場を整備することで、ICや市街地方面からの左折入場に対応することができます。



ゾーニング案2（フェーズ1との継続性を優先） ※ 大垣西IC西側の東方面に道の駅

フェーズ1の整備対象地に近接しているため、フェーズ1からの継続性に優れた整備が可能です。

また大垣西IC近隣に施設が集まることから視認性も良好であり、東海環状自動車道の利用者にとっては利用しやすいゾーニングであると考えられます。



◆印施設 …ゾーニングの特性を生かし、道の駅との一体整備により特に相乗効果を図る施設

多目的な交流を基軸にした周辺土地利用（道の駅×公園系施設）

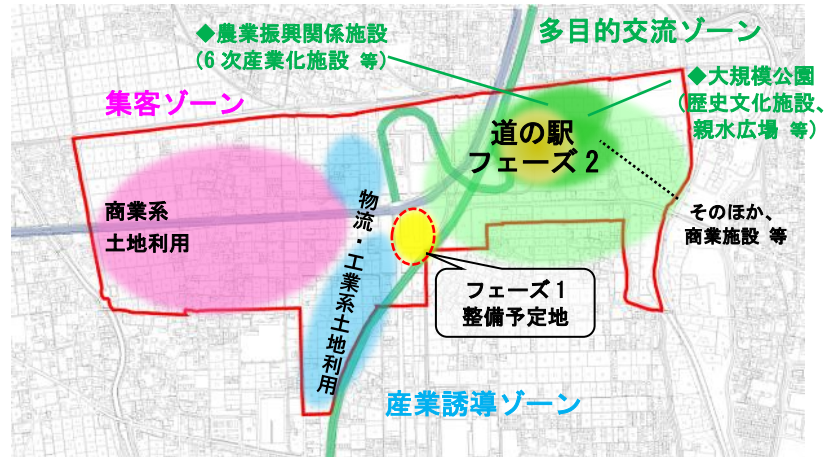
道の駅のもつ“交流性”“地域資源の発信力”に着目し、それらを飛躍的に向上させるべく、地域資源によるテーマ性を持たせた大規模公園施設等との一体整備を目指します。

本地区のもつ交通アクセス優位性や周辺に広がる自然資源をはじめとする様々な地域資源を生かし、交流効果や地域資源 PR 効果の最大化を図ります。

ゾーニング案3（地域資源活用性を優先） ※ 大垣西IC東側に道の駅

自然資源（河川、公園、農園）が近接しているほか、歴史資源（埋蔵文化財包蔵地（検遺跡））があり、それら地域資源を活用・連携した一体的な施設整備が可能です。

また、大垣駅（中心市街地）からのアクセス性に優れます。



◆印施設 …ゾーンの特性を生かし、道の駅との一体整備により特に相乗効果を図る施設

(3) ゾーニングにおける今後の検討の方向性

今後は、3案から1案へと絞り込むため、地権者との合意形成や民間企業への詳細な意向調査等を行い、具体的な計画として練り上げていきます。

6 整備スケジュール

フェーズ1は、5年以内の整備を目指すものとし、道の駅フェーズ2を含む周辺土地利用は10年以内の整備を目指します。

